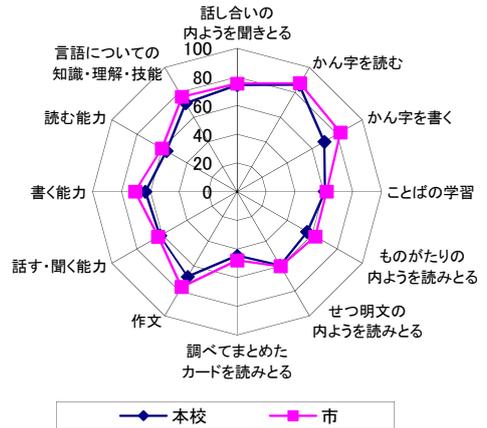


宇都宮市立宮の原小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	74.4	75.4
	かん字を読む	86.2	87.2
	かん字を書く	69.6	82.5
	ことばの学習	60.7	62.0
	ものがたりの内ようを読みとる	56.0	62.5
	せつ明文の内ようを読みとる	59.5	60.3
	調べてまとめたカードを読みとる	44.6	48.0
	作文	68.5	76.8
観点別	話す・聞く能力	61.6	63.0
	書く能力	63.6	70.6
	読む能力	56.5	60.2
	言語についての知識・理解・技能	71.3	76.3



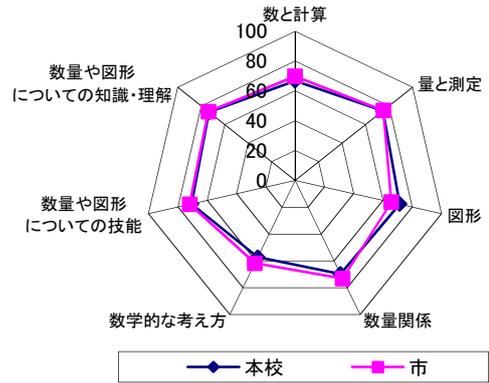
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	・平均正答率は、75%を下回る状況である。特に、聞きながら必要なことを短くメモすることが間に合わず、正確にききとることができていない。	・メモの取り方にかなりの個人差が見られる。話を聞きながらメモを取るような活動を授業や生活に取り入れていきながら、何が必要なメモなのかを確認していき、話の内容を正確に捉えられるようにさせていきたい。
かん字	・漢字の読みの平均正答率は、80%を上回っており、おおむね定着しているが、書くの平均正答率は70%を下回っている。特に「後ろ」の送り仮名の「ろ」がぬけていたり、「公園」の「園」が書けなかったりする児童が多かった。どちらの漢字も2年生に学習したものであることから、忘れてしまったことが考えられる。	・漢字練習は、漢字練習専用のノートに新出漢字を3行ずつ書かせる上にドリルや小テストを実施し、定着するよう行ってきた。これからは、更に2年生の漢字のプリントを合わせて学習したり、工夫した板書や教科書をノートに写させるなど漢字を自然に練習させ、定着に努めたい。
ことばの学習	・平均正答率は、60%程度と低い状況である。国語辞典での言葉の引き方はよく理解しているようであるが、問題の意図を理解できなかったり、同じ発音の中で、漢字を見て意味を判断することができなかったりする児童が多かった。また、漢字の「へん」については理解できているようであるが、ローマ字については、まだ理解が不十分である。	・国語辞典は日ごろからどの教科でも使うように心がけている。しかし、1つの字からたくさんの意味がある場合、どの意味があてはまるのかが理解できるよう、意図ある言葉を教師が選択し児童に意味の判断をさせるなどの指導に努めていきたい。また、ローマ字については、ローマ字ノートで何度も練習するとともにパソコン操作の際にキーボードのローマ字に多く触れさせるように指導していきたい。
ものがたりの内ようを読みとる	・平均正答率は、56%と低い状況である。文章のあらすじを要約することが比較的できず、特に場面の移り変わりを読み取ることができなかった。登場人物の気持ちの正答率は75%である。	・場面のイメージを想像させながら音読をさせていきたい。また、登場人物の行動や心情を書かれているところに文に線を引くなどしながら読むように指導する。さらにグループ学習など授業の形態を工夫し、児童間で場面ごとのあらすじなどの意見交換をさせるよう指導していきたい。
せつ明文の内ようを読みとる	・平均正答率は59.5%となっている。細かい点に注意して文章をよみとることは80%を上回っており、おおむね定着しているが、特に文章の要点については理解が低い状況にある。文章を全体的にきちんと読むことが苦手であると考えられる。	・説明文の形式段落に番号をつけさせたり、段落に題名をつけさせたりするなどして、段落ごとの要点を捉えさせるようにする。また、接続詞や指示語から段落のつながりを考えさせるようにしたい。
調べてまとめたカードを読みとる	・平均正答率は45%を下回り、領域の中で一番低い状況にある。これは、資料を読み取った上で、適切な言葉遣いで話すことができない状況にある。	・資料を正しく読み取れるように同じような教材を使い、問題に慣れさせる。また、カードを使ったゲームなどをグループ学習などで行い、友達同士の意見交換の中で資料を正しく読み取ることができるよう指導していきたい。
作文	・平均正答率は、70%を下回る状況にある。特に二段落構成で文章を書くことができなかった。また、指定された長さで書くことができなかった。	・作文を書かせるときに段落や字数に注目させながら、国語の最初の短い時間を使って書かせるようにする。できるだけ多くのテーマを教師から提示し、短文から書かせ、作文に慣れさせるようにし、書く機会を増やすように心がける。

宇都宮市立宮の原小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	66.7	69.8
	量と測定	74.8	75.2
	図形	71.4	65.7
	数量関係	69.6	73.1
観点別	数学的な考え方	57.1	61.7
	数量や図形についての技能	70.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	73.3	73.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、66.7%と領域の中で最も低い。波及的繰り下がりの計算を苦手とする児童が多い。また、数の相対的な大きさについて理解ができていない。さらに2つの表で異なる数値に着目するなど工夫して、条件を満たす場合を考えることが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の仕方はおおむね身につけていると考えられる。4けた÷4けた=4けたの計算に難がある児童が多かったので、プリント学習等で繰り下がりの計算をさせていきたい。また、簡単な問題を用意して、数の相対的な大きさについて理解させるようにしたい。さらに、表を読み取る学習では、簡単な表を提示し、異なるところや条件を満たす場合をよく考えさせるよう指導していきたい。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、74.8%である。特にものさしに示された長さを読み取ることができるの平均正答率は64%台と低い状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ものさしに示された長さを読み取ることができていないので、30cmものさしを用意し、めもりを何回も確認したり、簡単な問題をプリントなどで用意してドリル的に学習するよう指導していきたい。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、71.4%である。市の平均正答率を上回っているが、特に直方体の見えない部分の辺を認識して数えることが困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 直方体の実物を触らせたり、実物を見せながら見えない部分のイメージをさせたりしながら指導していきたい。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は69.6%である。特に□を使った式を十分理解していないため、□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> □を使った文章問題(減法逆の減法の場合)を表した図を用いて、図を参考にしながら、□を使った式のよさを明確にしていき、□を使った式を理解させていくよう指導する。